

各電源の特長を組み合わせ、ますます増大する電力需要を支えています。

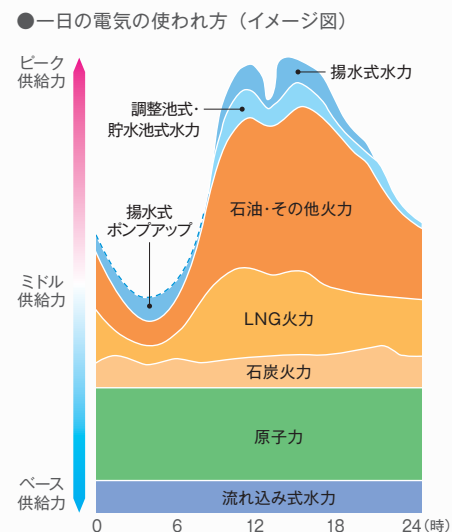
増加する電力需要に向けて、エネルギーセキュリティが大切になってきています。

各電源の最適な組み合わせ「ベストミックス」をすすめています。

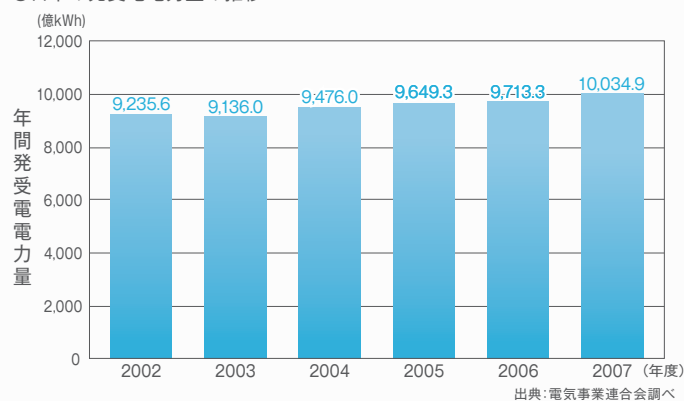
2007年度の日本の発電電力量は、過去最高を記録しました。これは4年連続の記録更新であり、今後もこの傾向は続くと考えられます。エネルギー自給率が4%しかなく、エネルギー資源を海外からの輸入に依存する日本にとって、エネルギーセキュリティ(安定的なエネルギー源の確保)は、ますます大切になってきています。

関西電力では政治や経済、国際情勢に影響されない安定したエネルギー源の確保をめざして、特定の資源に偏ることのない、多様なエネルギー源の組み合わせを推進しています。それはエネルギーセキュリティだけでなく、環境負荷や経済性の面など総合的に検討した最適な組み合わせをめざすものです。これを電源の

「ベストミックス」と呼んでいます。関西電力のベストミックスは原子力発電をベース電源とし、ピーク時の電力需要には火力発電などで対応する構成になっています。



●日本の発電電力量の推移



安定した電力供給のために、安定したエネルギー資源の確保に取り組んでいます。

火力燃料の長期安定確保のため、初のLNGプロジェクトへ参画し、LNG船を保有することにしました。

現在、中国やインドなどの新興国でエネルギー需要が急増しています。それに伴いエネルギー資源の需要も世界的に増大しています。こうした中で、供給の安定性や環境にすぐれたLNG(液化天然ガス)は火力燃料の主力となっています。関西電力は、西オーストラリア州北西部カラサ沖合で推進しているブルートLNGプロジェクトに参画。さらに、LNGの輸送のためにLNG船「LNGエビス」の保有を決定しました。こうしたガス生産から受け入れまでの一貫体制を確立することで、LNGを長期的に安定して確保することをめざしています。



●LNG貯蔵タンクの建設現場(ブルートLNGプロジェクト)



●ウエスト・ムインクドゥック・ウラン鉱山(カザフスタン共和国)

ウラン鉱山の開発に参画し、原子力発電用のウラン燃料の確保に取り組んでいます。

原子力発電の燃料には天然ウランを濃縮したウラン燃料を使用します。ウランに関しても、わが国は輸入に依存しているため、安定したウラン燃料の確保が不可欠です。関西電力では、世界第2位のウラン資源埋蔵量を誇るカザフスタン共和国で、ウラン鉱山の開発プロジェクトに参画するなど、長期的なウラン燃料確保に積極的に取り組んでいます。



●ウラン鉱山開発プロジェクトの記者会見

